

破天荒

教宣部

4992号

2015年
6月16日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合



2015 夏の一時金 2.48ヶ月!



昨日、夏一時金回答指定日で団交が行われました。組合は三社経常利益により計算された二・四八カ月、組合員以外は各社経常利益より計算された月数±〇・二カ月が支給月数となるそうです。

各社の業績

三社の業績で見ると売上・経常利益とも前年同期比減少し、一人当たり経常利益も減少したそうです。電子では国内一・二月の売上が悪く一進一退を続けている。客の短納期・値下げ要求が厳しく、新規獲得客数も鈍化している。海外は年々上向きだが円安メリットを生かせず不安定で先が読めない状況。外部仕入れ

コストダウンは目標達成を維持できている。これからミニ展示会やキャラバンカーを活用して既存顧客の底上げを行いたい。また新商品を出し続け維持拡大を目指していく。業績としては前年同期の売上は伸びたものの経常利益は減少した。

システムでは売上・経常利益とも伸び、やっと赤字脱却できたが黒字幅も小さく四月以降厳しい状態が続いている。黒字化を維持するため引き続き経費削減を行い、技術同行の客先訪問などを増やし営業を強化して、年度の黒字転換を目指していきたい。

オプトではOEM製品の中国移行化で厳しく、海外市場の売上が低迷している。売上・経常利益とも目標を達成できず、前期比からも減少した。新形レーザー

の発売で新業種に向への展開を期待している。

この会社説明がありましたが、電子の売上増・利益減の原因はETCの最後の賠償が影響したそうでこれからは無いそうです。システムは三年間続いた想定外の赤字(一人当たり経常利益の赤字八・三万)からようやく計算式支給月数の土俵に乗れたことはすごい事です。オプトは前年が良すぎたという見方もでき、三社の中で「一人当たり経常利益」は最高です。

計算式

夏の一時金は前年十月から三月までの経常利益、派遣・契約・嘱託も含めた従業員数により「一人当たり経常利益」が算出されています。

各社別で月数を計算すると
電子 二・四五カ月
システム 二・一八カ月
オプト 二・八七カ月

となり、今回初めて三社業績による月数二・四八カ月が電子単独月数を上回る結果となりました。

考課査定

組合員以外の正社員は相対評価(平均が計算月数)ではなく絶対評価で行っていると会社は説明しています。

電子のみ嘱託・契約社員に対しては一月月を基準に部門長がプラス査定を行うとしています。

プラス査定という言葉の響きは良くてもゼロ査定の人にとっては「差別された」という感情が残らないことに疑問を持っています。

団交での要請

嘱託社員について、元々ベースになる賃金が低いのでから同月数となるよう求めています。それが無理なら週三日勤務者に対する配慮を求めています。

二年前まで余程のことがない限り前年月数は確保すると表明していた頃の夏の一時金月数は二・四一二月月でした。しかし二十年以上、この計算式による月数回答方式が続いている会社には信念があると思えます。組合も一発押し付け回答に反感を持ちながらも妥結し続けてきた経緯もあり

ます。ならば毎年二回の一時金交渉を行わずに計算式での協定ができないか要請しています。



団交レポート

昨日、夏の一時金が2.48カ月で回答されました。組合が主張している2.412カ月を上回っているので、ホッとしています。

けれど残念に思ったことは、2.48カ月は「一人当たりの経常利益」から算出された数字で、物価上昇分に対する手当分が+ されていないなかつたことです。

今春闘で組合は消費税アップ、生活必需品の値上がりで定期昇給分+ ベースアップを主張しましたが上昇のみ。景気の良くない化学一般の支部でも10支部が低い金額(3百~千円)ながらベースアップしました。

今回の団交で物価上昇分に対する+ が加算できないか聞くつもりです。